

農地転用の現況をパトロール



大郷町農業委員会は10月23日、農業委員・農地利用最適化推進委員22名が農地パトロールを実施した。

転用許可後の利用状況や遊休農地の把握のため例年実施しているもので、この日は、農地の転用確認4箇所と令和元年19号台風被害の復興状況確認のため、被災農地2箇所を巡回した。小雨の降る中、申請時の

計画に基づき適正な施工がされているか、周辺の農地への影響がないかなどを重点的に確認した。

終了後、調査の取りまとめを行い、委員からは「近年は農地の転用目的が多用途化していて、本町においても太陽光発電施設や大規模農業施設の建設が増え、農村の風景も変わりつつある」との意見が出た。

また、佐々木洋悦会長は「農業委員・農地利用最適化推進委員は、申請を審議する上で農地の現状を把握し、将来の姿を見据え決定することが大事。高齢化が進み遊休農地、耕作放棄地が増えている現状を少しでも減らし農地を守っていきたい」と語った。

